

石井としひろの「館山市政かわら版」

館山市議会議員

敏 宏

やむなく行財政改革中心に



1、財政悪化と人手不足

①館山市は財政が厳しい方の自治体

2022年2月にウクライナ戦争が始まり、インフレが続いています。物価が上昇して支出が増える割に、館山市の収入の伸びは悪いです。その分が支出超過につながり、館山市は基金（貯金）を減らし続けて、財政が危機的になっています。

田舎でも全国の他の自治体を見ると、館山市のように厳しい自治体もあれば、そこまで厳しくはない自治体もあります。その差は何でしょうか？

②タイミングの悪さとふるさと納税の差

館山中（旧三中校舎など）の建替えですが、当初は40億円くらいの見込みでした。しかし、結果的に総額は、70億円近くに膨れ上がりました。設計と建設はやってみなければわからない面が多く、想定外もあったと思います。

しかし、建設業の人材不足と資材インフレが重なったことにより、入札価格が高騰しました。インフレを招いたウクライナ戦争後に大型公共工事を行わなければならなくなってしまったことが、館山市の財政を悪化させる要因になりました。

あと、全国の年収が少なそうな田舎自治体を見ると、魚介類・肉・果物が豊富で、ふるさと納税寄付金の収入が数十億円に上っているところが多く、そういう自治体は財政危機にはなりません。

一方、館山市では、そこまで一次産品に恵まれておらず、ふるさと納税は工夫をしても5億円を超えるのが精いっぱいです。寄付金が一桁近く違えば、財政も全然違います。

③かつての新規採用抑制の悪影響と、新たに職員が辞めていく傾向

小泉政権の時に地方予算が減らされ、全国の地方自治体は、定年退職者が出ても、新卒の採用を控えるという「退職者不補充」をして、職員数を減らしました。館山市も同様に職員数を減らしました。当時も後に悪影響が出ると言われていましたが、実際に現在、働き盛りと言われる職員の中間層が減って、組織としてのバランスが悪くなっています。

また、時代の雰囲気は「転職自由」の方向であり、インフレになると公務員よりも民間の賃金の上昇の方が早いことから、転職の動機が生まれます。このことから、全国的に公務員の退職が増えています。館山市も同様に増えて、人員不足が発生しています。かくして、人手不足が悪化し、なおかつ財政も悪化という、10年前より

もはるかに悪い状態になっています。

2、行財政改革をしまくるしか選択肢なし

①市役所の開庁時間の短縮

職員の勤務時間は現在もですが、ずっと8時30分から17時15分です。しかし、旧来の開庁時間は8時30分からでした。8時30分に来てすぐに市民対応は無理なので、残業が前提になってしまいます。ですから、開庁を昨年より9時からにしました。

また、17時まで市民対応をしていると、15分後に後処理をしてから帰宅というのも無理があり、残業が前提になります。このことから、開庁は16時30分までになりました。（*ただ、これは原則であり、時間外対応をする部署もあります）

職員不足のなかで残業が前提の開庁時間というのは難しいので、開庁時間を8時30分から9時に、17時から16時30分に変えるという、合計1時間の短縮はやむを得ないと思います。

②職員の組織改革。同じ人数で管理職を減らす

従来より館山市役所では、部長が足りずに、課長が部長を兼任するとか、課長なのに係長職を兼務するという矛盾が発生していました。この状態よりも、部長や課長という管理職の人数は減らしたうえで、兼務することなく、その職責に専念して欲しいと思います。

今回の組織改革は、「管理職を減らし、現場職員を増やす」ということですが、現実に即しています。なお、管理職が減ることにより、部や課の数も減らすことになり、いくつか統合があります。

③人口減少に合わせて、公共施設の削減

館山市では10年ほど前から「公共施設等総合管理計画」というものを作り、人口減少の予測割合に合わせて、20年間で2割の建物（床面積）を減らすという方針にしています。

このことから、老朽化した建物は廃止になっていきます。実際に船形の若潮ホール、出野尾と湊にある2つの老人福祉センターが廃止になりました。

温水プールの廃止については、本来であれば残したかったのですが、急速な財政の悪化により実現の可能性が見えなくなり、断念するに至りました。

小中学校における再編（統廃合）の目的の第一はあくまでも、教育における適正人数の確保ですが、行財政改革のための施設数削減という意味も兼ねています。

④各種の公共料金の値上げ

上水道の料金も値上げされました。また、公共下水道があるのは市の中心部に限定されますが、その下水道料金も値上げになりました。また、公民館や体育館などの施設の利用率も値上げになっています。

前述の削減や値上げについては、前向きなものもあれば、残念ながらやむなしというものもありますが、やらざるを得ないことと思ひ、私も賛成せざるを得ませんでした。

⑤障がい者への医療費補助の削減と、環境団体への補助金廃止には異議ありだったが

館山市では中軽度の障がい者への医療費補助を独自で行ってきましたが、大幅に削減されました。また、金額は数十万円ですが、環境保全を行っている団体への補助金も廃止になりました。これらの行財政改革については、議会で反対の1票を投じましたが、反対は少数に留まり、削減と廃止になってしまいました。

市民から反発を受けそうなことでも、賛成せざるを得ないものもあります。また、体制に対して、反対するのはやりづらい面もあり苦労します。ただ、いずれの賛否についても、自分の説明責任は果たしてきたと思ひますし、今後も説明は続けます。

3、教育と子育てに予算は付いている

①行財政改革を続けた3年間だったので、市民から「何をしているのかわからない」と市政への批判の声が増える

財政難を放置して、市民サービスが継続できなくなり、混乱してしまっている自治体は財政破綻した北海道夕張市の他にも、いくつかあります。財政難を放置すると資金が枯渇して、首が回らなくなるのは当然です。

ですから、財政悪化が顕著になれば、行財政改革をせざるを得ないのですが、だいたいどの自治体でも、コストカットや値上げをすると、「何もしない。失われた〇〇年」という批判の声が市民から大きくなります。

しかしながら、不人気でもやらざるを得ない行財政改革をしないと、さらに状況は悪化するだけなので、現在の行財政改革方針について総論として私は賛成していますので、各論でも多くは賛成しています。しかし、前述の通り、一部では反対してきました。

②土木と経済に目立った動きが少ない

私としては、雨天時の排水整備など、もう少し土木予算をつけて欲しいと思ひます。あと、市民からは経済対策に目立った事業がないという声も多いです。ただ、個人的には、市の経済対策の効果について疑問を持っています。実際のところ効果を感じるのは、国の事業として給付金支給などの代理業務が来た時でして、これは市民の懐が潤うので、確かに経済効果は実感するところです。国の事業の場合には、数億円規模の予算がポンとつきます。一方、市で数百万円の事業をやったところで、砂漠に水を撒くような感がぬぐえません。

③学びの多様化学校と小規模特認校

不登校の小中学生のために、公設フリースクールのようなイメージですが、子どもにとって自由度と個別度の高い「学びの多様化学校」というものを現豊房小学校の場所に作る予定です。また、神余や房南に見られる小規模校における教育も、特認校として充実させていきます。

この2つに関して、千葉県内で館山市が最も先進的かもしれません。また、存続する小学校については、先送りになっていた大規模な施設改修を順次行っています。行財政改革以外何もしていないのではなく、このように教育予算は付いているのです。

④マザーズホームの予算拡充と中学3年生にインフルエンザワクチンの補助

マザーズホームという発達が気になるお子さんの支援をする部屋がコミュニティセンターにあるのですが、予算が拡充されました。目立たないことですが、こういったきめ細やかな予算拡充は良いことだと思います。

また、受験を控えた中学3年生に対して、インフルエンザワクチン接種の助成も始めています。大事な時期ですから、インフルエンザの重症化リスクを下げるというのは合理的な施策だと思います。

⑤行財政改革が実施され、子どもへの予算は付いている

一見、市民からは動きがないように見える館山市政ですが、行財政改革を苦労しながら続けているのと、子育て・教育には予算が付いているというのが、市議会議員をしている私の見えていくところなんです。

<お知らせ>

「市政報告&意見交換会」を行います。

2月7日(土) 菜の花ホール 1F集会室

(図書館の近く。 館山市北条1735)

時間: 14:00~15:30頃

入場無料・予約不要なので、どなたでも当日、お気軽にお越し下さい。入退室自由ですので、ご都合のつく時間だけでもいらして頂ければと思います。

石井 敏宏 略歴

昭和47年2月 館山生まれ。
館山二中、安房高、立教大学
法学部卒業。平成23年4月に
館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井としひろ 後援会

〒294-0038 館山市上真倉320-2

TEL&FAX: 0470-23-7738

携帯: 090-1557-5515

メール ishiitoshihiro1@gmail.com

ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>